

1. 研究・調査報告

アマジシュ（乳頭腫）治療用自家ワクチンの製造とその効果

片 平 清 美

目 的

アマジシュとは牛の皮膚に出来るイボのことで、原因はサシバエ等から皮膚感染するウイルスであるといわれている。いろいろな治療方法はあるが、必ずしも確立されたものではない。これまでに小さいアマジシュは（第1図）その根元をヒモやゴムなどで縛って落としたり、直接切り取ったりして治療していた。しかし、イボの大きいものが数多く出来る（第2図）と前述の治療では無理があり、レーザーメスで切除する方法等もなされている。しかし、その方法は時間がかかり、牛にストレスを与えるため、優れた方法とは言いがたい。

沖縄では、アマジシュの治療に自家用ワクチンが開発され、高い治療効果が得られている。そこで、同様の方法により自家用ワクチンを精製し、入来牧場の牛に対する治療を試み、その効果を判定した。

沖縄共済組合獣医師高坂佳孝氏には、アマジシュ用自家ワクチンの作りかた治療方法に関して懇切な指導、助言をいただいた。ここに心より謝意を表する。

材料と方法

アマジシュ用自家ワクチンの作り方は、治療する牛の頭数に応じて、中程度のイボを200g位採取した。切り取ったイボは表面を水で完全に洗い、薬包紙などで汚物を取り除いた。さらにリンゲル液500ccにマイシリンまたはペニシリンを1～2cc入れた溶液を作り、その液で洗浄した。次に完全消毒した包丁またはメスを用い出来るだけ細かく刻んだ（第3図）。次に材料の5～10倍のビン容器（完全に煮沸消毒した薬用ビン等を利用）に入れ、上記のリンゲル液で満たした後冷蔵庫に2～3日間静置した（第4図）。その後、滅菌したガーゼか濾紙で溶液を濾過した。その濾過液にホルマリン液の1～2%量を入れ無菌的に保存した（第5図）。治療にはその液を1頭当たり約20cc10日間隔で2回皮下注射した。

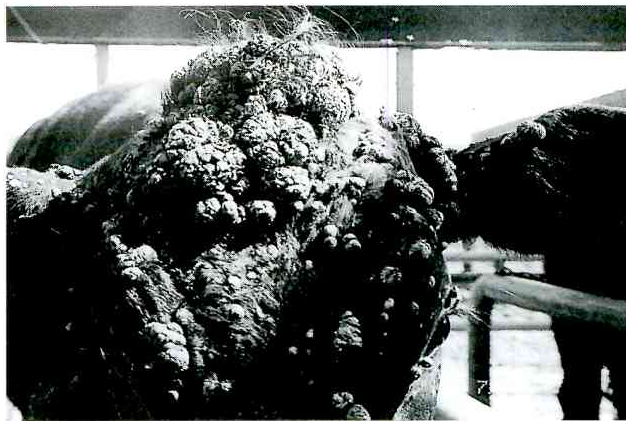
結果と考察

自家ワクチンを注射するとアマジシュの表面が7～10日位で白く枯れて来た。更に枯れてくるごとに牛が壁などでこすり落とし、注射終了後約1～2ヶ月位で完全にアマジシュがなくなった。治りの悪いものは再度自家ワクチン注射を繰り返すと完全になくなった（第6図）。自家ワクチンを注射することより家畜の採食量および増体量の減少は認められなかった。また健康状態についても異常は認められなかった。

以上のことから、牛のアマジシュを治療するには、自家ワクチンを用いることで簡単に治療出来ることから、自家ワクチンはアマジシュの治療に非常に効果的であると考えられた。



第1図 乳頭腫が小さく少ない状況



第2図 乳頭腫が大きく多い状況



第3図 乳頭腫を小さく刻んでいる状況



第4図 乳頭腫をリンゲル液で満たした状況



第5図 自家ワクチンを濾過した状況



第6図 乳頭腫が完全に無くなった状況